

講義名	教養総合（災害と流通）		
科目区分	教養総合		
担当教員	南木 睦彦 / 西井 和夫		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4時限		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 / 2018年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2018年度 経済学部 経済情報学科 / 2018年度 経済学部 経済学科 / 2018年度 商学部 マーケティング学科 / 2018年度 商学部 経営学科 / 2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	44037

主題と概要

本授業は、授業計画にあるように前半部（8回：No.1～No.8）と後半部（7回：No.9～No.15）を2名の教員が担当するので、それぞれの授業の概要を以下に説明する。

前半部では、災害のもととなる自然現象の頻度や規模、またその結果としての災害の頻度や規模について、地震と津波、火山災害、気象災害（台風や豪雨）、その他の災害を取り上げて学ぶ。ハザードマップや様々なケースについても学び、災害に取り組む姿勢を養う。

後半部では、まず、大規模災害に対してどのように対応すべきかについての基本的な理解を深める。そのために『防災』の基本的な考え方とともに、『減災』についても防災と併せて対応すべきことの重要性、またそのために必要な平常時における災害への備えや防災まちづくりの考え方を解説する。

次に、本授業の主題である流通分野における災害への対応に論点を絞り、大規模災害（阪神淡路大震災や東日本大震災を主な事例として）の発生時（災害時）とその後の災害復旧途上の時点（災害復旧時）に分けて、それぞれの時点における対応の基本的考え方を示し、さらに流通分野の関連事業者が取り組むべき具体的な対策について解説する。そして、平常時における防災・減災の考え方を踏まえた、地域社会における流通事業者の取り組むべき課題についても解説する。具体的には、地域の防災・減災まちづくりとの連携のあり方および災害に備えとしての企業のリスクマネジメント体制の考え方について事例を交えた解説を行う。

到達目標

前半部の到達目標
 ・災害の種類、規模、頻度について基礎的な知識を持っている。
 ・自分自身が体験する可能性のある災害について、調べる力があり、また、その時にどう対処すべきかの、イメージができています。

後半部の到達目標
 本科目名の『災害と流通』は、両者の関係を往々にして限定的に捉えてしまう。そのために、後半部では、受講生には、まず、大規模災害を想定した一般的な『防災』の考え方やその基本的な対応のあり方を理解させるとともに、併せて『減災』の考え方の重要性を理解し、災害への備えとしての「災害に強い（地域防災のための）まちづくり」の考え方やその具体的な対策についてその基礎知識を学び習得する。
 次に、平常時における防災・減災の考え方を踏まえた、地域社会における企業の取り組むべき課題として、地域の防災・減災まちづくりとの連携のあり方と災害に備えとしての企業のリスクマネジメント体制の考え方を学び習得する。

提出課題

前半部のまとめとして、自分自身の災害体験と自分が生活している地域の災害のリスクについてまとめたレポートを提出する。

評価の基準

前半部50点、後半部50点の合計100点で採点する。
 前半部：平常点40%（毎回の確認レポートや発言5%×8回=40%）、前半まとめレポート30%、前半確認テスト30%
 後半部：平常点100%（（6回目までの毎回の小テスト15%×6回）80%、7回目（小テスト+レポート）20%）

履修にあたっての注意・助言他

後半部：とくにないが、毎回の講義ごとに小テストを行うので欠席すると平常点は減点される。

教科書

・使用しない。

プリント資料及び参考文献

講義時に配布するプリント

授業計画

1. 災害のもととなる自然現象ならびに災害の種類、規模、頻度、（その場所ですべてどのように起こってきたか）
2. 地震と津波
3. 火山災害
4. 気象災害
5. その他の災害
6. ハザードマップと地域のリスク
7. ケーススタディ、あなたはどの時どうするか
8. 前半部のまとめ 前半部確認テスト
9. 「防災」への基本的理解（1）
10. 「防災」への基本的理解（2）
11. 「共助」と「防災まちづくり」(1)
12. 「共助」と「防災まちづくり」(2)
13. 企業としての防災(1)
14. 企業としての防災(2)
15. 「BCP」と「事前復興」

予習・復習

前半部：
 配布資料に記入したり、ノートを作成したりして、授業内容を整理していただきたい。授業直後にその日の内容を整理し、次の授業の直前に前回授業をふり返っておくことが望ましい。平均的な学生で、この作業に要する時間は1回の授業に対しておおよそ30分程度である。
 前半部の最終授業では期末確認テストを実施する。このテストの準備のために要する時間は平均的な学生で（普段の学修

備考